

聖メアリ教会バンブリー（英国国教会と合同改革教会により共有）

この教会は18世紀に建設されたジョージ王朝末期の建物で、1797年9月に献堂されました。この建物は献堂される前は、豪華な中世風の教会でしたが、荒廃して破壊の恐れのある危険な建物になってしまいました。1790年2月のある日曜日朝、教会の古い部分の一部、また翌日には塔も崩壊してしまいました。修復工事は財政難を理由として当初遅れましたが、1822年にはペーパーポットと呼ばれる塔が最後に完成し、新たな教会が再建されました。

建築家サミュエル・ベピーズコッコーリル 27メートルの四方の正方形となるように建物を建設しました。この建物は著名な建築家であるクリストファー・レン卿がデザインした聖スティーブズ教会（ウォルブルーク）をモデルにしたと考えられています。モデルであった理由の一つとして、2つの丸天井が12本の古典的な柱によって支えられているからです。オリジナルの回廊は四方を取り巻き、教会には、3,000人収容できました。

19世紀中期、建物が当時起きたオックスフォード運動の影響を受けて、大規模に建て替えられました。1858年東側の回廊は取り壊され、1873年、東側の部分全てがアーサー・ブルームフィールド卿のデザインをもとに再建されました。ブルームフィールド卿が入れた彩色豊かな装飾はチャペルにあるモザイクで模造されたものと、南の吹き抜けへ通じる扉近くの小さな装飾を除いて、当時の面影を残すものはありません。

チャペルにある壁画： 主祭壇上にある後陣の丸天井は虹、4人と20人の長老、4頭の動物、聖霊の象徴である7つの明かりなど the Vision of God from Revelation 第4章の場面を描写しております。

主祭壇の背後には、召命あるいは殉教の象徴を抱える12使徒の像があります。左から右に順に、1) 小ヨハネ、2) 大ヨハネ、3) 聖ユダ、4) 聖シモン、5) 聖ペテロ、6) 聖ピリポ、7) 聖ヨハネ、8) 聖マテア、9) 聖バルトロメオ、10) 聖トーマス、11) 聖アンドレ、12) 聖マタイの12使徒たちです。

窓： ステンドグラスもブルームフィールドの時代に作られたものです。中でも、無名のアーティストが描いた回廊上部にある身廊の東端に位置するステンドグラスは最も素晴らしいものです。

回廊の上部窓(もし2階から見学したい場合はその旨を案内役に申し付け下さい)には、キリストの生涯から幾つかの場面を合わせて30点、また窓の下部には、10の寓話が描写されております。全ての窓に見られる緻密な下地も見応えがあります。

北側の二番目の上部窓には、著名な北極探検家である提督ジョージ・バック卿の優れた功績を記念にした北極窓があります。この北極窓には、同提督がスケッチした氷に閉ざされたH. M. S テラー号、エスキモー人、北極熊、アザラシ、トナカイ、セイウチ、雪片などが模写されています。

チャペル(礼拝堂)： チャペルは中世紀の教会にみられた礼拝堂の名を永久にとどめています。そこには、戦没者慰霊碑と1964年、モンテカッシーノから持ち込まれたランプ・オブ・ブラザーフッドが収められています。これは世界で84個しかない内の一つで英国でもここにしかありません。

鐘： 教会の塔が鐘の重さのため、1928年には危険な状態になりました。このため、8個の鐘は取り除かれ、響きが軽やかな10個の鐘に改鑄されました。鐘は1930年に完成し、塔の下部にある鉄の梁に取り付けられた鑄鉄の枠に掛けられました。この10個の鐘のうち、2つはハーフトーン(半音)です。最も古い1667年のテナー・カーストと呼ばれる鐘に彫られてあった銘は改鑄された鐘にも同じ銘が再刻されています。又他の鐘にもオリジナルの製造年月日が再刻されおります。

オルガン： 1765年にバイフィールド、ウィルコックス、ナイトがオールド・チャーチ用に製造しました。以来、何度か大改造されました。スネルツラーの名前が書かれていますが、その由来は不明です。また、有名なオルガン製作者の名前を冠したバイフィールド・オルガンではありません。

カリヨン(鐘)曲： ビクトリア王朝時代に作られたカリヨン曲が朝9時、正午、午後3時、夕方の6時に演奏されます。

歴史的な考察： 文豪ジョナサン・スウィフトはガリバー旅行記の序文で、ガリバーの名前はバンブリーにある教会墓地の墓石に書かれている名前に由来していると述べています。ガリバーの名前を留める当時の墓石は現存しませんが、後に作られた墓石にはガリバーの名前が残っています。

最近の改造： 2001年～2年の冬の間に司祭席がステージ・非常用ライト・トイレなどの施設を作るため前方へ拡張され、教会は改造されました。現在セントメアリは崇拝場でもあり、また市民のために劇などを演じる場所となっております。

なお、『聖・メアリ教会(バンブリー) — その歴史』という書籍を見て頂きますと、教会の歴史などが詳しく考察されております。